

令和6年度 学校評価報告書

小樽市立忍路中学校
校長 本庄 有希子

【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価

A: 100%以上
B: 80%以上100%未満
C: 80%未満

【学校関係者評価】

学校の自己評価に対し、以下の基準で評価

◎: 適切である
○: おおむね適切である
△: 適切でない

1 本年度の重点目標

「誰一人取り残さない学びの保障」

様々なニーズを有する生徒を誰一人取り残さない多様な学びの機会を確保する。

生徒のそれぞれの良さや持ち味を生かし、みんなが活躍できる機会や出番がある授業づくりを行う。1人1台端末を活用した生徒一人一人の学習進度や興味・関心に応じた指導など、生徒の特性に合った柔軟な学びを実現する。

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国学力学習状況調査の平均正答率を全国平均以上とし、2学期末チャレンジテストの正答率を前年度比110%、誤答に取り組む生徒を100%とする。	C	過去の全国学力学習状況調査問題に取り組み、その分析から学力向上委員会を中心に授業改善を進めてきた。全国学力学習状況調査の平均正答率は国語47%、算数44%であり、全国平均を10ポイント以上下回る結果となった。チャレンジテストの平均正答率は50%であり、前年度比を上回ることができた。	◎
	特別支援教育の充実	「個別の教育的ニーズに応じた指導の充実に努めている。」に「十分」「おおむね十分」と回答した教員の割合を100%とする。	A	特別支援教育コーディネーターを中心とし、個別的教育支援計画や教育指導計画に基づいた教育活動をすすめて、定期的な個別支援対策委員会を実施した。後期教職員学校評価の肯定的回答は100%であり、個別の教育的ニーズに応じた指導の充実に係る取組について目標値を達成した。	◎
	国際理解教育の充実	「学校はALTを活用した外国語など、新しい時代に対応した教育活動をすすめている」に肯定的回答をする保護者の割合を100%とする。	A	外国語活動、外国語に関わらない、多くの場面でALTと生徒が交流出来るよう、行事への積極的な参加を働きかけた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成した。	◎
	理数教育の充実	全国学力・学習状況調査の質問紙等で「算数・数学の勉強が好き」と肯定的に回答した生徒の割合を80%以上にする。	B	1人1台端末を活用し、知識・技能などの基礎的な資質能力を確実に育成する授業づくりを特に数学の授業において実施してきた。全国学力学習状況調査の肯定的回答は50%、後期生徒学校評価での肯定的回答は70%であり、目標値を達成できなかった。	◎
	情報教育の充実	北海道チャレンジテスト等、MEXCBTを活用した問題配信を年間5回以上実施する。	A	小中で一貫した発達段階に応じた活用目標を設定し、ICTを活用した授業づくりを進めてきた。北海道チャレンジテストや端末を活用した週内課題で、MEXCBTの問題配信を5回以上実施している。	◎
	キャリア教育の充実	「学校は地域の特徴を生かした教育活動をすすめている」に肯定的回答をした保護者の割合を100%とする。	B	総合的な学習の時間を中心として、地域人材を活かした職業体験を進めてきたが、職業についてより探究的な学習を進めることができなかった。後期保護者学校評価では80%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
改善方策		「確かな学力の育成」に向けて、知識・技能の定着を図るため「小樽授業づくり5つのステップ」に基づいた授業の実施と、少人数指導、端末を活用した授業の振り返り、「子どもに委ねる」場面を明確にした授業づくりを進めることで、社会で生きていくために必要な力を総合的に育む確かな学力の育成を図る。			
学校関係者評価委員による意見		・小規模校では平均値は学力の正確な数値では無いと思う。少人数を活かした指導、テスト対策に偏らない教育をお願いしたい。			
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「学校は、あらゆる機会を通じて規範意識の醸成に努めている。」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を90%とする。	B	特別の教科道徳を授業参観や指導主事訪問の際に公開し、また道徳教育推進教諭による研修を実施するなど、子どもの規範意識醸成に努めてきたが、後期保護者学校評価では80%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
	ふるさと教育の充実	「学校は、地域の特徴を活用した教育活動の推進に努めている。」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	A	地域人材から地域の産業について総合的な学習の時間で探究的に学習する教育課程を編成・実施してきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成することができた。	◎
	読書活動の推進	「学校は、生徒に読書への興味を持たせる読書活動の充実に努めている。」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	B	学校司書と連携し、ブックフェスティバルの実施、移動図書館来校の際の本の貸し出しなどの取組を進め、読書活動の推進について保護者へ周知してきた。後期保護者学校評価では80%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
	体験活動の推進	「学校は地域の人材や施設を活用した体験活動をすすめている」の肯定的回答をした教員の割合を90%以上とする。	A	地域の文化財について学習する教育課程の充実に努めるとともに、学校だよりやHPを通じた保護者への周知を図ってきた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100%であり、地域を理解する体験活動を推進することができた。	◎
	コミュニケーション能力の育成	全国学力学習状況調査「話し合う活動」について、肯定的回答の生徒の割合80%以上、生徒学校評価100%を達成する。	C	全ての教科での振り返りなど「自分の考え」を表出する場面を設定し、多様な他者と協働する教育活動を進めてきた。全国学力学習状況調査において50%の肯定的回答であり、学校評価アンケートでは70%の肯定的評価であった。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「学校は、いじめや不登校の未然防止のためにアセスメントなどに取り組んでいる。」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	B	年2回のアセスメント実施を継続するとともに、欠席時の板書クラウド化や、課題提出による評価の工夫など不登校児童生徒のウェルビーイング向上に向けた取組を進めてきた。後期保護者学校評価では80%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
改善方策		「コミュニケーション能力の育成」について、小中一貫した「話す・聞く」を中心とした学習規律を徹底し、全教科で実施する自分の考えを表出する活動を通して、論理的な思考力や表現力を育成し、他者とのコミュニケーション能力を高める。			
学校関係者評価委員による意見		・保護者の規範意識、読書活動の低下が子どもに反映しているのではないかと。少人数の学校ではコミュニケーション能力の向上に工夫が必要ですね。不登校については保護者の期待が大きいということですかね。			

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「学校は、体力向上のために縄跳びなど運動能力の向上に努めている。」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	A	鉄棒週間やのぼり棒週間、マット運動週間など子どもが体育の授業以外で運動する機会を意図的に設定し、体力向上の取り組みを実施してきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成することができた。	◎
		食育の推進	全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査において「朝食を毎日食べている」と回答した割合90%以上とし、外部講師を招いての食育授業を実施する。	B	食育授業については全学年を対象に栄養教諭による授業を実施することができた。全国学力学習状況調査では100%の肯定的回答であり、後期生徒学校評価では70%の肯定的回答であった。	◎
		健康教育の充実	「学校は、家庭と連携し、望ましい生活習慣づくりに取り組んでいる」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とし、健康に関する外部講師を招いた健康に関する講座を実施する。	A	学校全体として生活リズムチェックシートを活用した取組を家庭と連携してすすめ、保護者会などを通じて健康教育実施の状況について周知してきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成することができた。。	◎
改善方策		「食育の推進」に係り、栄養教諭による食育授業が生活習慣の改善に繋がる実施時期を担当に検討させ、生活習慣の改善や体力向上と連携した食育授業を進め、効果的な教育活動を進める。				
学校関係者評価委員による意見		・学校と保護者が連携して健康と体力の向上に努めてください。 ・少ない人数の中、元気に運動会を実施しているのはとても素晴らしい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	年間複数回の生活リズムチェックシートを実施し、1人1台端末の週末持ち帰りを通じた家庭学習の習慣づけを図る。	A	夏季休業、冬季休業明けに「生活リズムチェックシート」実施期間を設定し、保護者と連携した生活習慣の改善に努めている。また、家庭学習については週ごとに担当教科を割り当て、端末によるデジタルドリルを課題とした学習を実施している。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	「学校は地域の人材や施設を活用した体験活動をすすめている」の肯定的回答をした教員の割合を90%以上とする。	A	地域人材を活用した総合的な学習の時間の充実に努め、学校だよりやHPを通じて保護者への周知を図ってきた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100%であり、地域を理解する教育活動がすすんでいると考える。	◎
改善方策		家庭・地域との連携を見直し、CS運営協議会委員と協力する教育活動を推進するとともに、HPやInstagramを活用した広報活動に取り組む。				
学校関係者評価委員による意見		・学校から地域への情報発信に工夫が必要ですね。地域行事への参加を勧めてください。 ・端末の活用に頼りすぎているような気がする。プリントなどで字を書くことも少しあっても良いと思う。 ・小中発表会では忍路や蘭島の街の歴史、縄文遺跡の研究など、地域の特性を捉えて発表していた。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中共通のグランドデザインを作成し、小中併置に係る保護者アンケートの肯定的回答を100%にする。	C	小中合同の行事実施や、中学校教諭による専科授業の実施など小中一貫教育をすすめる、学校だよりやHP、保護者会などを通じて実施の状況を周知してきた。後期保護者学校評価では60%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境の点検を年3回実施する。	A	後志教育局指導監訪問、指導主事訪問の前に全ての教室の教育環境を点検し、子どもにとって学びやすい環境作りに努めてきた。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教員一人、3回以上の研修会、研究会への参加と体罰に関する調査で「体罰0」の継続。	A	校内研修や小樽市教育研究会への参加も含めて全教職員が3回以上の研修会に参加するとともに、職員会議を活用したコンプライアンス研修を実施し、体罰0はもとより、教職員の資質・能力の向上に努めた。	◎
		学校運営の改善	超過勤務時間が月45時間以下の教員の割合を90%以上とする。	B	クラウドを活用した職員連絡の工夫など、学校DXによる校務改善をミドルリーダー中心に提案してきた。11月末までの月45時間以下の教員の割合は81%であり、目標値を達成することはできなかった。	◎
		学校安全教育の充実	「学校は、警察・消防等との連携など安全教育の充実に取り組んでいる」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	A	小中合同避難訓練を年3回実施し、保護者へ学校の安全教育について周知を図ってきた。また、令和7年度に向けて危機管理マニュアルを見直している。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成することができた。	◎
改善方策		年間指導計画作成時に「教科の見方・考え方」を新たに記載し、小中一貫して各教科の教育活動を進めることで、学校教育目標の具現化に取り組む。また、クラウドを活用した学校運営の改善に努め、学校の組織力を高める。				
学校関係者評価委員による意見		・教職員の一層の資質、能力の向上に努め、子どものより良い成長の実現に向け頑張ってください。				
社会教育に関連する目標（目標6～8）			社会教育機関と連携し、外部講師を招いた社会教育に関する教室を3回実施する。博物館や図書館等の社会教育施設を訪問し、地域の歴史や自然の様子について理解を深める。	A	地域の講師を活用した地域学習や忍路環状列石の見学学習、縄文土器づくりの学習など地域人材や地域の社会教育施設を活用した教育活動を3回以上実施することができた。	◎
改善方策		社会教育関係機関と連携し、地域人材や市内で活躍する講師と連携したキャリア教育講話などの教育活動を実施していく。				
学校関係者評価委員による意見		・学校と地域をつなぐ活動、信頼関係の充実に向け、CS運営協議会委員をパイプ役として活用してください。				